

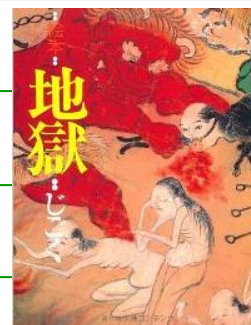
# Card Seek ブロマガ(Vol.7)

2012 年 4 月 13 日 号

「 痛 み を 知 る 」

小 河 俊 紀

大人でさえ正視できないような凄惨なシーン満載の「絵本 地獄（風涛社刊）」が今大ブームになっているという。「生命を粗末にしたり、他者を陥れるようなことをすると、恐ろしい地獄に落ちる」という戒めとして、幼児教育に使われているらしい。



それなら、「善行と天国」についても同等に教えるべきとは思うものの、痛みを察する風潮なら意味深い。

## 電 車 内 の あ る 光 景

先日の夕方、都内での仕事が終わりに、かなり混雑する電車に乗って帰る途中の出来事。空席がひとつだけあり、幸い私は座れた。次の駅で、電車のドアが開くと白い杖をついた80歳前後の老婆が手探りで乗り込んできた。



視覚障害もあるようだ。

そこへ、すっと中年の婦人が近づき、「おばあちゃん、この手すりに捉まってね」と誘導した。

その瞬間、反射的に私も席を立った。「どうぞ、こちらの席に座ってください」と手を差し伸べると、「ありがとうございます！」と本当に嬉しそうな笑顔で座ってくれた。私もつられて笑顔になった。

後で気付いたのだが、隣や向かい側のシルバーシートにはいずれも20～30代くらいの若者が座っており、いずれもヘッドフォンやスマートフォンに気を取られていた。

### 痛みを察するとは

つい数か月前の私なら、その若者達と同様だったと思う。この事例は年配者特有の自慢話でも若者の批判話でもない。

戦後生まれで、同期が多い私たち団塊世代は、弱肉強食の時代を生きてきた。「実力競争」の名のもとに、強者が弱者を駆逐するこ

とが善だと信じてきた。しかし、強者は永続しない。いつか、予想もしない形で弱者になる。病気・ケガ、左遷・失業、離婚、そして加齢などが契機で。

私が視覚障害のお年寄りに咄嗟に席を譲れたのも、昨年末から見舞われた視覚の変調体験が影響している。弱者の痛みがわからないと、思いやりは生まれない。

## 高齢化社会

急速に進展する高齢化社会を前に、消費税引上げ法案が国会に上程された。

このプロマガは、これまであえて政治論議は避けてきたが、庶民の生活目線を知らない強者が、「先ず増税ありき」という政策を強いることに首を傾げざるをえない。

スーパーのレジで、年金暮らしのお年寄りが貴重な小銭を必死に数えている姿を、為政者は見たことがあるのだろうか？

増税するなら、せめて電子マネーの本格導入くらい国費でやってほしいと願う。